

No.7	事業名	学校給食単独校化推進事業	担当課	教育総務課
<p>【事業概要】</p> <p>1979年（昭和54年）の藤沢市新総合計画で、小学校給食調理場の単独校化が決定されて以来、進められてきた。</p> <p>しかし、1998年（平成10年）に小糸小学校の単独校化終了後は、校舎の耐震補強工事が喫緊の事業として進められたため、単独校化が進まなかった。</p> <p>2009年（平成21年）には、西部学校給食合同調理場から給食を配送していた学校が4校あったが、そのうちの善行小学校が耐震による校舎の建て替えと共に給食調理場を新設し、2010年（平成22年）には、対象校が3校になった。（耐震による校舎の建て替えのための本町小学校を除く。）</p> <p>耐震補強工事も終了したことから、残りの3校も単独調理場を建設することにより、さらなる安全・安心な給食を提供していく。</p>				
<p>【目的】</p> <p>単独校化が終了していない大庭小学校、滝の沢小学校、駒寄小学校の単独調理場を新設し、安全・安心なおいしい給食を提供する。</p>				
<p>【平成22年度実施内容】</p> <p>大庭小学校に単独調理場を新設した。</p> <p>大庭小学校は、善行小学校に続き市内2校目の「完全ドライシステム」の調理室で、床が濡れないため、水跳ねによる食材の汚染を防ぐなど、衛生管理が向上している。</p> <p>また、市内初のオール電化の調理室を採用し、夜間電力を利用した給湯システムなど光熱水費の削減を目指した。</p> <p style="margin-left: 40px;">建築概要 鉄筋コンクリート造 2階建 延べ床面積 545.67㎡ 食数 570食規模</p>				
<p>【効果・成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 各学校の行事に合わせる等、学校の特色を出し、きめ細やかな給食が実施できる。 (2) 教師や児童にとって、調理場の作業状況等、給食に対する理解がしやすく、身近に感じられる。 (3) 教師との連携が十分とれることから、食育・栄養指導等が行いやすい。 (4) 給食時間に合わせて調理ができ、出来上がりから配膳までの時間が短縮され、衛生面において、より安全になる。 (5) 食材の衛生管理・品質保持がしやすく、事故発生時の影響が小さくてすむ。 				
<p>【課題・問題点（内部評価）】</p> <p>大庭小学校の単独校化が終了したことにより、未実施校は、滝の沢小学校と駒寄小学校の2校となった。</p> <p>平成23年度は西部学校給食合同調理場の対象校は、耐震化により建て替え中の本町小学校を含め3校分の調理を行っているが、本町小学校の建て替えが終了するため平成24年度は2校のみの調理となる。</p> <p>この2校の単独校化を進めるにあたり、1校ずつ行くと西部学校給食合同調理場で1校分の調理を行うことになる。1校のために西部学校給食合同調理場を維持管理していくのは非効率的である。一方、単独校化には、1校当たり約4億円かかるので、2校同時の建設は単年度の負担が大きくなる。</p>				

【課題解決の具体的方法】

- (1) 滝の沢小学校、駒寄小学校の2校同時の建設と予算の平準化を図るため、リース方式とする。
- (2) リースには、建物だけでなく大型の備品も含め、さらに単年度の経費負担を軽減する。
- (3) リース期間は2013年（平成25年）3月から2022年（平成34年）3月までの121ヶ月とし、リース期間終了後は、無償で市に譲渡される契約とする。

■外部評価員からいただいた主なご意見

1. 事業が目的を実現するための内容となっているか

- 1979年（昭和54年）の藤沢市新総合計画で小学校給食を単独調理場方式で進める方針が決定され、2013年（平成25年）4月から市内全部の小学校が単独校化が実現される。安全・安心なおいしい給食を提供する事業として評価できる。

2. 事業の効果・成果が適切なものか

- 食の安全と効率を考えると良いと考える。
- 学校給食の事業をめぐっては、様々な議論があるが、単独校化の利点について指摘されている内容は適切である。

3. 課題・問題点の捉え方は適切か

- 35校中33校の単独校化が完了し、残る2校もめどがついたとのことで適切である。

4. 課題解決の具体的方法は適切か

- 単独調理場は効率面での問題があるが、リース方式をとることで、単年度負担を軽減する工夫をしており、適切と思われる。

5. 総合的な感想（アドバイス）

- 2005年（平成17年）の食育基本法の制定を踏まえた2008年（平成20年）の学校給食法改正により、学校給食の中心的な役割は、栄養改善から「食育」へ移ることとなった。食の教育にとって学校給食は「生きた教材」であり、単独校方式はこの観点からも大きなメリットを有しており、大いに活用していただきたい。
- 現在、中学校の給食検討委員会が立ち上げられているが、中学校の給食復活も視野に入れて検討してもらいたい。